来週の市場とレート予想

	7/10(月)	7/11(火)	7/12(水)	7/13(木)	7/14(金)
無担保O/N	△0.086% ~ 0.001%				
銀行券	+ 900	ト ン	ト ン	ト ン	△ 1,000
財政他	△ 30,800	+ 3,000	△ 14,000	△ 24,000	+ 4,000
資金需給	△ 29,900	+ 3,000	△ 14,000	△ 24,000	+ 3,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還 (3M・6M) 国債発行(30年)		源泉税揚げ	国債発行(5年) 交付税特会借入・償還	
オペ期日	共通担保(全店) △ 1,300 CP等買入 △ 400 国債補完供給 + 800				
オペスタート	共通担保(全店) + 1,300	国債買入 + 8,000 短国買入 + 15,000			
(日本)	日銀支店長会議 黒田総裁の定例支店長会議 でのあいさつ要旨 地域経済報告(7月) 国際収支(5月) 機械受注(5月)	マネーストック(6月)	企業物価指数(6月) 日銀営業毎旬報告(7月10日現在) 第3次産業活動指数(5月) 日銀が保有する国債の 銘柄別残高 日銀による国庫短期証券の 銘柄別買入額		
(海外)	米 労働市場情勢指数(6月) 米 消費者信用残高(5月) 欧 ユーロ圏財務相会合	米 求人件数(5月) 米 フレイナードFRB理事講演 欧 EU財務相理事会	米 イエレンFRB議長、 下院金融委員会で証言 米 ペー・ジュブック	米 生産者物価指数(6月) 米 新規失業保険申請件数 (8日終了週) 米 財政収支(6月) 米 イエレンFRB議長、 上院銀行委員会で証言 米 シカゴ連銀総裁講演 米 フレイナードFRB理事講演	米 CPI(6月) 米 小売売上高(6月) 米 鉱工業生産(6月) 米 ミシガン大学消費者マインド' 指数(7月速報値) 米 企業在庫(5月)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.04 ~ 0.001
SPOT 2M	△0.01 ~ 0.001
SPOT 3M	△0.01 ~ 0.001
SPOT 6M	△0.01 ~ 0.001

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、362兆8,500億円から始まった。その後税揚げや国債の発行等を受けて360兆円台まで低下し、週末7日には国債買入オペを主因に362兆5,900億円となった。
無担保コールON物加重平均金利は、3日に△0.06%をつけると、その後は週を通して堅調な地合いとなり、同金利は上昇し続け、週末7日には△0.05%まで上昇した。
ターム物は1W~2W物を中心に△0.05%~△0.035%のレンジで出合いが散見された。
日銀は7日、2017年2月3日以来の国債買入の指値オペをオファーしたものの、応札・落札はなかった。
来週は、国内では日銀支店長会議と地域経済報告(10日)、海外では、ペー・ジュブック(12日)などが予定されている。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	マイナス ~ 0.001
TDB 3M	△0.115 ~ △0.090
現先(on/1w)	△0.100 ~ 0.000

<CP>

今週の入札発行総額は約7,100億円で、週間償還額の約3,200億円(金融機関・ABCP除く)を大幅に上回った。5・10日発行や決算期末で残高調整を行った企業の復活案件が多かった事が重なり、活況なマーケットとなった。
発行レートは、相変わらず投資家の旺盛な運用ニーズもあって、足切が流れることもなく、多くの銘柄で0.001%割れでの出合いであった。
来週の償還額は、3,500億円程度となっている。今週に引き続き、復活発行が行われる見込みで、活況が予想される。
12日に、CP等買入オペが3,500億円程度でオファーされる予定。
発行レートは、投資家の強い運用ニーズもあって、概ね横這い推移と思われる。

<TDB>

5日に国庫短期証券6M第693回債の入札が行われ、最高落札レートは△0.1000%(前回債△0.0982%)、平均落札レートは△0.1019%(同△0.1042%)と前回債から利回りが小幅上昇。6日に行われた3M入札(第694回債)も最高落札レート△0.0912%(前回債△0.0942%)、平均落札レート△0.0955%(前回債△0.0982%)と、マイナス幅をやや縮小した。週末のセカンダリー市場では3Mが△0.098%、6Mが△0.104%出合いが見られた。来週は13日に3M物の入札が予定されている。

<レポ>

足許GCは、週初△0.05%台から始まり、週央にかけて△0.07%台に低下した。短国3M・6Mの発行日となる10日受渡しも、レートの上昇には至らず△0.08%近辺の出合となった。週末は約5か月ぶりとなる指値オペがオファーされたこともあり、資金調達の様子見となる展開。△0.10%台前半の出合も見られたが、最終的には△0.10%近辺の調達希望が残る形となった。

SC取引では、週を通して10年333・334・335回債のビッドが多く、10年334回債は△0.30%台半ば~後半、10年335回債は△0.50%を超える出合いも見られた。他2年376・377回債、5年131・132回債、10年340・341・342・343・344・345・346・347回債、20年161回債、30年54・55回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。